

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|-------------|---|---|----|---------------|-----|--|
| 環境・ 体制整備 | ① | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 8 | 1 | | 基準以上の広さを確保できているので、運動ができる場所と静かに活動する場所を分ける配慮をなるべく明確にできるように工夫していく。 |
| | ② | 職員の配置数は適切であるか | 8 | 1 | | 職員配置基準より多い職員数となるよう児童指導員や保育士に加え2~3名を配置している。通所を始めて間もない時期や、常に見守りが必要なお子様には1対1担当や職員を多く配置するなど工夫している。 |
| | ③ | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | 8 | | | 建物自体が高齢者デイサービスとして建設されたのもので、バリアフリー化されており、開所時にも東京都の実地検査でチェックを受けている。お子様の閉じこもり事故防止の措置として現在はエレベーターを停止し、日常的には階段を利用いただいている。臨機応変に対応してまいります。 |
| 業務改善 | ④ | 業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか | 5 | 4 | | ミーティングや始業前の打ち合わせなど、職員がそろって機会を活用し、意見を出しやすい環境を作っていく。職員会議の中で「業務改善」の時間を確保していく。 |
| | ⑤ | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | 6 | 2 | | 保護者の評価は職員会議で全員に周知し、改善策の達成ができているか定期的にチェックしていく。 |
| | ⑥ | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 7 | 1 | | ホームページで公表している。 |
| | ⑦ | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | 5 | 3 | | 開所2年が経過したので、3年目には実施に向けて予算を申請する。 |
| | ⑧ | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 7 | 2 | | 施設で年間に計画されている星山麻木先生の研修の他にも都の研修が紹介され、積極的な参加を奨励している。 コロナの影響で合同研修の開催が難しくなり、WEB研修が主流になってきたので、個人で学びたい研修がある時は事業会議に事前申請し、費用と時給が支給される仕組みを新たに作った。 |
| | ⑨ | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | 9 | | | 従来からのアセスメントに加えて、2020年は保護者様へのアンケート形式の「感覚・動作アセスメント」を導入し、機能訓練士が感覚機能や運動機能からもお子様の困り感や行動の要因をデータ分析・評価を行った。日々の支援経過記録から見えてきた課題や発達状況をモニタリングしながら、保護者面談でニーズを確認、修正し、総合的に反映された計画となるよう作成している。また必要に応じて構音検査も実施している。 |
| | ⑩ | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | 4 | 3 | | 従来からのアセスメントに加えて、保護者様へのアンケート形式の「感覚・動作アセスメント」を導入し、機能訓練士が感覚機能や運動機能からもお子様の困り感や行動の要因をデータ分析・評価を行っている。 |
| | ⑪ | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 8 | 1 | | おやつ作り、工作にチームで行っている。他の事にも広げていきたいと考えている。 |

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

| チェック項目 | | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|--|--|----|---------------|---------|--|
| 適切な支援の提供 | ⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 7 | 2 | | 工場見学など計画していたが、コロナの影響で中止となった。それに代わって車で遠くの広い公園に出かけたり、栗拾いやサツマイモ堀、買い物体験は実施できた。市内の木工工房サンダンス・ウッドワークスさんへの社会科見学も新たに実施。こども達が大好きなおやつ作りも個人用に徹底できる工夫をしながらバリエーションを広げ実施してきた。 |
| | ⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | 5 | 4 | | 平日は学校での疲れを発散するために、公園遊びや室内遊びでもバランスボールやトランポリン、卓球、大縄跳びやスクーターボード、サーキットなどで体力づくりを心掛けている。本年度は長期休みを利用した行事がコロナの影響で計画通りに実施できなかったが、夏休みは、1階の児童発達支援の部屋を開け放しての夏まつりゲーム大会やお店屋さん、駐車場を使って毎日水遊びを楽しみながら、仲間とのコミュニケーションの機会としてきた。秋には栗拾いやサツマイモ堀、買い物体験。冬はクリスマスリース作りやコマ回しなど、季節感を大切にしながら、密にならないように注意し、自然環境を生かしたプログラムの中で、運動機能や手先の巧緻性を高めたり、創造性・発想性を豊かにすることなどを目的に支援している。 |
| | ⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成しているか | 7 | 1 | | 個々に感覚・運動アセスメントを行い分析評価をもとに、個別の困り感を把握し、課題を整理して支援に生かしている。集団活動は子どもたちの相性に留意し、仲間遊びや集団ゲームに仲立ちしながら誘うなど、課題に沿って計画を作成している。 |
| | ⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | 7 | | | 非常勤職員の場合は、子どもの来所が早いと十分な打ち合わせができないことがあるので、必要な時には勤務時間を早めるなど工夫していく。 |
| | ⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | 2 | 5 | 2 | 支援終了後には掃除や送迎、各自の記録に時間がとられ、勤務時間内に全員での打ち合わせ、振り返りの時間の確保が難しい状況がある。その日のうちには時間が取れず、各自記録したことを読み合わせることで共有に努めている。そのため今年度は常勤職員を増員し、振り返りに参加できる人数を増やしてきている。 |
| | ⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | 8 | | | 支援終了後は、支援の検証改善に役立てていける内容となるように、支援経過記録の時間を確保している。 |
| | ⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | 5 | 3 | | 定期的に計画の振り返りを行い、反省点の改善に努めている。 |
| | ⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか | 4 | 4 | | 個々のお子様の発達の状態によって組み合わせを工夫している。 |
| ⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | 5 | 4 | | 参画している。 | |

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|--------------|---|--|------|---------------|-----|--|
| 関係機関や保護者との連携 | ㉑ | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか | 8 | 1 | | 7校から利用者がきているので、基本的に登所時刻の通知は保護者からの月の利用表の記入にて把握しているが、職員の交代等によって時間の間違いが発生しないよう、都度確認を徹底していく。 |
| | ㉒ | 医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | 該当なし | | | |
| | ㉓ | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | 3 | 3 | | 保護者から検査結果や児童発達での通所状況等の情報を提供していただき、面談でも確認・共有に努めている。必要に応じて訪問し生活状況の確認等を行ってきたが、コロナ禍での訪問の実施は出来ない。コロナの状況を見て再開していく。 |
| | ㉔ | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか | 該当なし | | | |
| | ㉕ | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | 2 | 4 | 1 | 関係機関の会議に出席した職員から、会議の内容の説明を受け助言を理解している。 |
| | ㉖ | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | 1 | 6 | | 稲城市の児童館は小学生以上は児童のみの利用という規定があるため、2020年度は第四児童館に、支援員同伴の入場についてご検討いただいたところ、支援員が登録することで、通所児童に付き添っての入館を許可するとの回答を頂いた。今後コロナの状況をみながら、障がいのない子どもたちとの交流の機会を作っていきたい。 現在、コロナ渦中なので交流はしていない。 近隣の公園に行ったときには、同じ学校の児童や友達と一緒に遊ぶ機会がある。 今後、土曜日に関しては児童館の利用も計画に組み込むことを考えていきたい。 |
| | ㉗ | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか | | 6 | 1 | 参加している。 |
| | ㉘ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | 6 | 1 | 1 | コロナ自粛期間中はZOOM交流会の開催や電話での相談、訪問で様子を伺ったり、課題をお届けした。通所再開後は保護者に今日の様子を伝えられていないところのご指摘を受け、伝えられる職員が添乗するよう見直しを行った。またお迎え時には担当者が玄関に付き添い、保護者の方に今日の様子をお伝えするよう改善した。 |
| | ㉙ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | 1 | 5 | 2 | 施設を訪問された機会にゆっくり話を伺ったり、電話相談等でも必要に応じて行っている。 ペアレント・トレーニングに関して、職員のスキルアップを図るための研修を行っていく。 |
| 保護者への説 | ㉚ | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 6 | 2 | | 契約時に行っている。 |
| | ㉛ | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 6 | 1 | 1 | 電話やメールでの対応に限らず、来所時に伺ったりと、必要に応じて臨機応変にタイミングを見ながらお話を伺っている。今後、ZOOMなども活用しながら、気軽に相談できる体制をお知らせする。 |

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|---------|----|---|----|---------------|-----|--|
| 明責任等 | ③② | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | | 4 | 4 | コロナの影響で本年度は保護者会、保護者との行事は自粛になったため、保護者同士のコミュニケーションは不足していると感じている。昨年の行事を再開したい。 |
| | ③③ | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 7 | 1 | | 苦情対応については、契約時に重要事項説明書で詳しく説明を行っている。第3者委員会も設置しているので、訴えがあれば迅速に対応できる体制は整っている。 |
| | ③④ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 8 | | | お便りを毎月発行し、活動概要や行事予定をお知らせしている。 |
| | ③⑤ | 個人情報に十分注意しているか | 9 | | | 常に注意喚起と確認作業を怠らないよう、会議での声掛け、張り紙等での見える化や定期的な研修を行っている。 |
| | ③⑥ | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 8 | 1 | | 絵カードや、分かりやすい言葉での説明、書類の記載についての補助等の配慮を行っている。 |
| | ③⑦ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | | 4 | 5 | 地域住民を招待できる行事を計画していたが、コロナ禍中なので実施できていない。 |
| 非常時等の対応 | ③⑧ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | 6 | 3 | | 職員には周知しているが、緊急時の保護者の対応については周知が不十分だと思われるので、文面にて、今後施設の対応についてお知らせする。 |
| | ③⑨ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 7 | 1 | | コロナによる休校措置中は行わなかったが月1回を心がけ、定期的に行っている。2020年は1月、2月、コロナの状況中止期間、7月、8月、9月、10月、11月の7回実施。消防署には開催の都度「自衛消防訓練通知書」を提出している。曜日を変更しながら実施しているが、お子様の通所日に当たらない場合もあるので、今後は保護者の皆様へのご報告をホームページやお便りでお知らせする。 |
| | ④⑩ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | 4 | 5 | | 職員チェックシートや研修を行っている。お子様の怪我や打ち身など発見した際には本人への確認や保護者へのお知らせなど行っている。 |
| | ④⑪ | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | 4 | 4 | 1 | 身体拘束については厚労省の資料を基に、研修で共通理解を行っている。保護者には契約時に説明し、放課後等デイサービス計画にも記載している。 |

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

| チェック項目 | | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|--------|---------------------------------------|----|---------------|-----|--|
| ④② | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | 5 | 1 | 2 | 該当者なし。 |
| ④③ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 6 | 1 | 1 | 作成して共有している。日々の見逃されている事例があるので、皆が共有できるような日々の記録をつけ、その都度周知していくこととした。 |